

近年、運輸行政、道路行政をはじめ、まちづくりの計画策定などの場面において、「モビリティ・マネジメント（Mobility Management：MM）」というキーワードを見聞きする機会が増えてきました。本連載では、10回にわたりこの「モビリティ・マネジメント」の基本的な考え方やその可能性について紹介します。

S E R I E S
シリーズ

公共交通活性化MM実践講座 第4回

モビリティ・マネジメントの 実践例① 自治体・帯広市・当別町

伊地知 恭右 (いぢち きょうすけ)

(社)北海道開発技術センター
地域政策研究所研究員

本稿から4回にわけてモビリティ・マネジメントの北海道内における具体的な事例を紹介する。その中で、MMの取り組みが「身近」なものであり、その効果が「確かなもの」であることに『共感』していただければ幸いである。

小学生を対象としたMMの展開：帯広市

帯広市は、自動車への依存傾向が高いという現状を認識し、今後の高齢化社会、温室効果ガスの排出等の社会問題に対応すべく、路線バスを中心とした公共交通の活性化に向けて、多様な施策を継続的に展開している。例えば、「市民からバス車内で廃食用油（てんぷら油）を回収→バイオディーゼル燃料（BDF）を製造→バスの燃料に活用」という新たな循環システムの形成により、ゴミの削減、温室効果ガス排出の削減、バス利用活性化という、多くの効果を生み出している。

さらに、市内の小学生を対象とした「出前講座：環境問題教室」においては、平成19年度から上記のBDFによって運行するバス車両を活用した授業を実施しており、児童・先生から高い評価を得ている。この中で行われる授業は、地球温暖化のしくみや、交通と環境の関わり、BDFに関することなど多岐にわたり、これらを帯広市・帯広運輸支局・バス事業者・BDF製造会社が横断的に連携して実施している。MMを通じて、このような地域内の連携が生まれることも大きな意義の一つといえるだろう。

また、この成果は、児童に配布した「バス無料お試し券」の利用率に顕著に現れており、出前講座実施校の児童は、未実施校の児童に比べて約6倍の利用があったことが確認されている。MMにおいては、「バスの利用経験」が「バスを利用する習慣」をつくるきっかけとなること、さらには、児童を通してその親にも施策効果が波及する可能性などが指摘されており、この種の「小学生を対象とした取り組み」は、非常に有意義なものといえるのである。



バス車内での廃食油回収体験



BDFの排ガスのにおいをかぐ児童

出前講座	配布枚数	利用枚数	利用率
実施校	922枚	254枚	27.5%
未実施校	304枚	14枚	4.6%

6倍の利用率

図 出前講座実施の有無によるバス無料お試し券利用率の違い

“バス祭り”の実施：当別町

帯広市の事例からも分かるように、MMの手法、つまり公共交通の活性化（利用意識の活性化）に向けた施策は、従来のTFP^{※1}に代表される「コミュニケーションアンケート」に留まらず、幅広い取り組みに発展している^{※2}。ここでは、その一例として、当別町の「バス祭り」を紹介する。

当別町では、民間送迎バスと自治体バスの一元化を実現し、平成18年度よりコミュニティバス「当別ふれあいバス」の運行を開始した。そして、その運用方法の改善と合わせ、TFPの実施、バスマップの作成、ニューズレターの配布、学校MMなど、利用促進に資する取り組みを継続的に行っている。その中で、平成21年度には、当別ふれあいバスの新規導入車輛「ポンチョ」のお披露目や、DMV^{※3}車輛の展示、ハイブリッ

ドバスの試乗体験、さらには「交通すごろく」の実施など、数多くのメニューを盛り込んだ交通に関する町内イベント“バス祭り”を開催した。

来場者数は約2,000名と、大いに盛り上がりを見せ、来場者へのアンケート調査でも、現在はバスを利用していないが「今後は利用してみたい」と回答した人が約15%、「機会があれば利用したい」と回答した人が約65%にのぼったことから、約80%の人がバスの利用意向を示す傾向が確認され、多くの参加者に「バスを利用するきっかけ」を与える効果的なイベントであったことがうかがえる。

この種の施策は、いわゆる普及啓発活動に該当し、一般的に施策効果を明確にとらえることが難しいとされているが、当該地域における「公共交通の必要性」がゆるぎないものだとすれば、今後も積極的に推進していくべき施策であるといえる。その際に、MMの手法を採用することで、施策の有効性を高め、さらにその効果を確実に測定することが可能となるのであり、これを踏まえた上で、今後他の地域においても同様の取り組みが広がることを期待される場所である。



新車輛のお披露目



「交通すごろく」の実施

※1 TFP (Travel Feedback Program)

交通施策者と一般市民との間で複数回のコミュニケーションを通じて、人々に、習慣的になっている過度なマイカー利用を見直してもらうプログラム。

※2 日本モビリティ・マネジメント会議サイト

<http://www.jcomm.or.jp/>

※3 DMV (Dual Mode Vehicle)

列車が走るための軌道と自動車が走るための道路のいずれも走行可能な車輛を指す。